

<白金標準、相場格言「需給に勝るものなし」・・・>



(出所：オアシス)

イスラエルがイランの世界最大の天然ガス精製所を攻撃するとイランはカタールの天然ガス（LNG）精製所を攻撃し、輸出能力の17%が停止したと明らかにしている。またトランプ政権は CBS が米国が地上部隊派遣の可能性に向けた準備を進めていると報じるなど、イラン戦争が長期化する様相を受け、リスク逃避の動きを強めている。特に白金標準先物は、一時10000円を下回ったことから2月9日以来の9423円まで下値を試すなど、金価格の逃避に合わせて売られている。しかし金価格との違いは、白金価格には明確な需給が存在しており、外的な要因を受け一時的に売り込まれても最終的には需給に立ち返る値動きを見せている。特に過去にもリーマンショック、欧州のソブリン債リスク、コロナ禍における経済の停止など、様々な要因で大きく急落するも尽く回帰相場を続けている。今回もWPICが発表したPGM需給報告では、2026年は7トンの供給不足を予測し、4年連続の供給不足を示唆している。その事は10000円の抵抗を強めており、一時的に10000円を下回るも短時間で10000円を越える値動きを見せている。そのため週末から10000円を割り込む動きを示すも、「需給に勝るものなし」の格言を受けた巻き戻しの値動きに注目したいと思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下げながら、シグナルも切り下げている。RCIでは短期が下落し、長期も下げている。特に日足が狭い指数平滑移動平均線のレンジから離脱しており、4桁の価格を試す値動きを見せて来ると思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取 11,225,000 円(2026 年 3 月 23 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 113,520 円(2026 年 3 月 23 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>